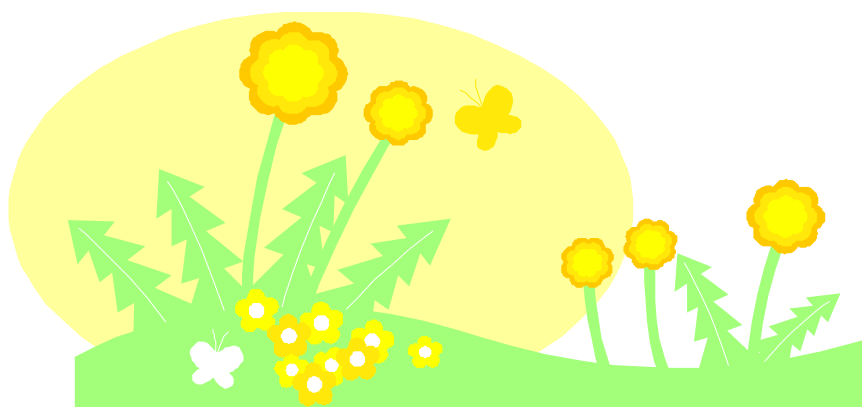


さま



私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



カピバセルチブ（トルカブ）
＋
フルベストラント（フェソロデックス）
療法を受けられる方へ

■ 主治医／担当医

■ 受け持ち看護師

2026年6月24日 作成

治療スケジュール

がん細胞の増殖に関わる遺伝子の働きを抑える薬（トルカブ）と女性ホルモンの働きを抑える薬（フェソロデックス）を併用して乳がんの進行を抑える治療です

トルカブ内服とフェソロデックス注射の日程はズれることがあります

1 サイクル（7日間）

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
カピバセルチブ (トルカブ)	1 日目 内服	2 日目 内服	3 日目 内服	4 日目 内服	5 日目 休薬	6 日目 休薬	7 日目 休薬

- ・ 1日2回4日間内服（月曜日から木曜日まで）し
3日間休薬（金曜日から日曜日まで）します
これを繰り返します

フルベストラント (フェソロデックス)	1 日目 注射	15 日目 注射	29 日目 注射	57 日目 注射	以降は 4週間毎に 注射します
------------------------	---------------	----------------	----------------	----------------	-----------------------

- ・ 注射2本を打ちます
おしり（左右）に1本ずつ注射します

薬の説明について

- ◆ 治療前に薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
説明時に、注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします
治療が開始したら、毎日服薬手帳の記録をしましょう

服用チェック欄に内服した時間も記入しましょう

- ・ トルカブによる治療を受けられる方へ
- ・ 服薬手帳



入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます



- ◆経口抗がん剤治療で治療継続中および最終内服日から2日間は尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが
できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

- ・尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り
トイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう
- ・トイレの後、フタがある場合は
フタをして水を2回流しましょう



- ・ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
＊使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
＊トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
 - ・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
 - ・尿や便、吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
 - ◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
 - ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には、看護師にお伝えください

治療前の歯科受診について

- ◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように治療開始前の歯科診察を行っています
- ◆治療前の歯科受診では、以下を行います
 - ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
 - ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
 - ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導
- ◆通常1～2回の受診で終わることができます

口の中はとても細菌の多い場所です
治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります
特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中をきれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です



糖尿病内科の受診について

- ◆服薬期間中に血糖が高くなる場合がありますので、定期的な血液検査や糖尿病内科の受診をして、異常がないかを確認します
- ◆入院中は血糖値を測定し、治療前後の変化を確認します
 - ・血糖値は食事の前と寝る前に測ります
 - ・測定結果によって血糖を下げるための注射をします
- ◆治療後の経過を確認しながら、追加で受診や治療（飲み薬や注射薬など）を追加することもあります

高血糖について

- ◆治療の影響で急激に血糖が高くなる可能性があります
放置すると数日で重篤な状態に陥る場合があります
- ◆早期発見・早期治療のためには、ご自身が症状に気づき、医師に連絡することが重要です
- ◆高血糖のサイン
高血糖になると、のどが渇きやすい、排尿の回数や量が増える
体重が減る、などの症状があります
吐き気、嘔吐、腹痛、脱水、全身の倦怠感、意識障害などの症状が
あらわれた場合は、すぐに医療スタッフにお知らせください

口渇
いつもより
喉が渇く

多飲
いつもより
水をよく飲む

多尿
いつもより
尿量・尿回数
が多い

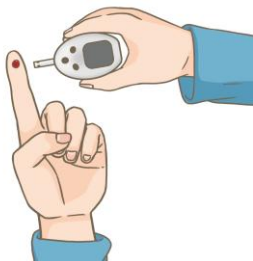
急激な
体重減少
脱水症状

倦怠感
がんだるさ
とは違って
よりだるい

- ◆購入可能な検査キット
持っている方は、結果も一緒に医師にお知らせください



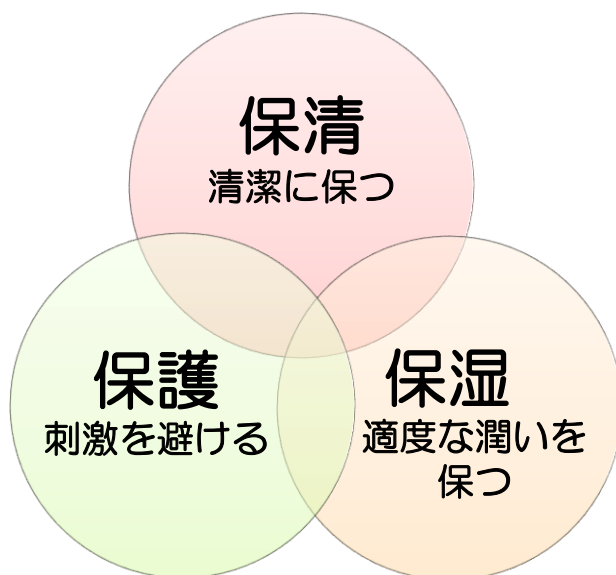
- ①尿試験紙
試験紙に尿をかけると判定できます
薬局で購入できます



- ②自己血糖測定器
指先から血液を少量出し、血糖値を測定する
機械です
既に糖尿病で、インスリンを使用している場合は
病院から処方できます
糖尿病でない方は、希望があれば薬局で購入する
ことができます

発疹について

- ◆治療期間中に、皮膚のトラブルが起こることがあります
特に治療を始めて8日目～2週間前後は、発疹に注意してください
具体的な例として、皮膚が赤くなる、赤い発疹がたくさん出る、唇が赤く腫れぼったくなる、耳が赤くなり腫れるなどがあげられます
発熱（高熱）、関節やのどの痛みなどを伴う場合もあります
- ◆皮膚の保清・保湿・保護に努めましょう
例）熱いシャワーは避ける、長湯・熱湯は避ける
乾燥するときにはクリームを塗って保湿する など



- ◆入院中に症状が出た場合・・・
すぐに医療スタッフにお知らせください
- ◆自宅で過ごしているときに症状が出た場合・・・
体のどこに、どのくらいの範囲で、どのような症状が出ているのか
生活にどのような影響が出ているのかをメモしておきましょう
可能なら、皮膚の状態を写真に撮っておきましょう
皮膚の症状と一緒に、発熱・関節の痛み・のどの痛みがある場合は
すぐに病院に連絡しましょう

排便について

◆普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

◆治療の影響により、下痢になりやすくなります

特に治療を始めた直後～3週間前後は、下痢に注意してください
予防として、治療薬と同時に整腸剤の内服を開始します

◆便の性状について（ブリストルスケール）

便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兔糞状の便	
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便	
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便	
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便	
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便	← 回復目標
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の 小片便 泥状の便	← 下痢止め 服用
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便	

- ・ブリストルスケール6（泥状便）～7（水様便）のときは下痢止めを飲みますので、すぐに医療スタッフに伝えましょう
- ・下痢の回復目標は、「5. やや軟らかい便」です
- ・下痢が続くと脱水になりやすいので、こまめに水分補給をします
- ・便秘になったときは、下痢止めは中止します

◆こんなときは、医療スタッフにお知らせください

例）激しい腹痛・発熱・嘔吐がある、血便や黒色便が出た
めまいがする、体が常にだるい、飲食ができない など

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように**患者さんご自身の目標**と**医療スタッフの目標**をあげています

入院は約1～2週間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては、予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますので、ご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます



入院日 月 日



今日の目標

- ・ 治療の必要性、副作用について理解できる
- ・ 医療スタッフの説明が理解できる

<時間>

<予定>

11:00

入院 【入院後に以下のことを予定しています】

- ・ 看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明

12:00

昼食 (テレビの病院案内も参考にしてください)

- ・ 検温、血圧測定、身体測定
- ・ 連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
- ・ 歯科受診
- ・ 血液検査、尿検査

<お薬>

- ・ 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします
医師に確認後、続けるか中止するかをお伝えします

<食事>

- ・ 食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせ
ください

18:00

夕食 ・ 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります

- ・ 初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります

21:30

消灯

<血糖測定>

- ・ 食事の前と寝る前に血糖測定をします
測定方法は看護師が説明します
測定結果によって、血糖を下げるための注射をします

薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします
治療が開始したら、毎日服薬手帳の記録をしましょう



医療スタッフの目標

- ・ 安心して治療が受けられるように支援します



ご自身で抗がん剤を管理し、内服する時期

治療開始日 月 日



今日の目標

- 薬を正しく内服することができる
- 副作用出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- 発疹がない
- 下痢や吐き気がない

<時間>

<予定>

水分をしっかりととりましょう
服薬手帳に記録をしましょう

6:00

起床

7:30

血糖測定
朝食、内服（整腸剤）

- 抗がん剤を服用します
- 抗がん剤は、ご自分で
セーフティーボックスに
入れて保管しましょう
- 内服前後は手を洗いましょう

9:00

糖尿病内科診察

10:00

検温、血圧測定

糖尿病内科受診後、抗がん剤の内服をはじめます

下痢について説明します

「トルカブによる治療を受けられる方へ」「服薬手帳」参照

12:00

血糖測定
昼食、内服（整腸剤）

注射したところが腫れた、痛い、かゆい
ときは遠慮なく看護師にお伝えください

18:00

血糖測定
夕食、内服（抗がん剤と整腸剤）

21:30

血糖測定
消灯



医療スタッフの目標

- 副作用の早期発見に努めます
- 薬を正しく服用できるように支援します



ご自身で抗がん剤を管理し、内服する時期

治療2日目～4日目

月

日～

月

日



今日の目標

- ・薬を正しく内服することができる
- ・副作用出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- ・発疹がない
- ・下痢や吐き気がない

<時間>

<予定>

水分をしっかりととりましょう
服薬手帳に記録をしましょう

6:00

起床
血糖測定

7:30

朝食、内服（抗がん剤と整腸剤）

9:00

糖尿病内科診察
（4日目）

- ・抗がん剤を服用します
- ・抗がん剤は、ご自分で
セーフティーボックスに
入れて保管しましょう
- ・内服前後は手を洗いましょう

10:00

検温、血圧測定

発疹や皮膚障害、高血糖について説明します
「トルカプによる治療を受けられる方へ」「服薬手帳」参照

医師から退院許可が出たら、看護師より退院当日の流れと
退院後の日常生活について説明があります

12:00

血糖測定
昼食、内服（整腸剤）

注射したところが腫れた、痛い、かゆい
ときは遠慮なく看護師にお伝えください

18:00

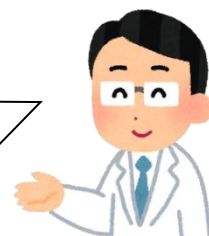
血糖測定
夕食、内服（抗がん剤と整腸剤）

21:30

血糖測定
消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用の早期発見に努めます
- ・薬を正しく服用できるように支援します
- ・退院の準備をすすめられるように支援します



血糖の確認が必要な時期

退院準備期

月

日～

月

日



今日の目標

- 発疹がない
- 下痢や吐き気がない
- 副作用の予防と対策方法がわかる
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床

水分をしっかりととりましょう
服薬手帳に記録をしましょう

7:30

血糖測定
朝食、内服（整腸剤）

10:00

検温、血圧測定

爪のトラブルについて説明します
「がん治療による爪のトラブルについて」
パンフレット参照

12:00

血糖測定
昼食、内服（整腸剤）

看護師より退院当日の流れと退院後の日常生活について
説明があります
感染予防のためにうがい、手洗いはしっかりとしましょう

18:00

血糖測定
夕食、内服（整腸剤）

21:30

血糖測定
消灯

医療スタッフの目標

- 副作用の早期発見に努めます
- 退院の準備をすすめられるように支援します



退院日 月 日



今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

水分をしっかりととりましょう
服薬手帳に記録をしましょう

7:30

血糖測定
朝食、内服（整腸剤）

お預かりしている薬、退院の薬がある場合はお渡しします
次回外来予約票をお渡しします

10:00

退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階で入院費をお支払ください

医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活でわからないことや不安がないように支援します



退院後の日常生活について

●高血糖

高血糖になると、のどが渇きやすい、排尿の回数や量が増える
体重が減る、などの症状があります

体調の変化を感じたときは服薬手帳に記録し、受診時に相談してください

吐き気、嘔吐、腹痛、脱水、全身の倦怠感、意識障害などの症状が
あらわれた場合は、すぐに連絡してください

●発疹

治療中は入浴や着替えの際に、全身の皮膚の状態を確認するように
しましょう

背中も鏡で確認しましょう

ご自身で確認しにくい場合は、ご家族など周りの方に見てもらいま
しょう

皮膚の症状が出たときは、服薬手帳に記録し、受診時に相談してく
ださい

可能なら、皮膚の状態を写真に撮っておきましょう

発熱、関節やのどの痛みなどを伴う広範囲の発疹がみられたときは
抗がん剤の内服を中止する場合がありますので、すぐに病院に連絡
してください

●下痢

整腸剤が処方されている場合は、指示通り内服を続けてください

下痢がみられたら、処方されている下痢止めを服用してください

服用しても何日も改善がみられないときは連絡してください

下痢が続くと脱水になりやすいので、こまめに水分補給をしましょう

●注射部位の観察

注射したところが一時的に硬くなったりかゆくなったりすることが
あります

症状が続く場合や痛みが伴う場合は受診時にお知らせください

●食事

バランスの良い食事を心がけましょう
食欲がないときは、無理をせず、食べやすいものを食べられるときにとるようにしましょう
味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、医療スタッフにお知らせください
ご希望があれば、自宅で食事の準備をされている方なども一緒に管理栄養士の説明をお聞きいただけます



●清潔

入浴やシャワー浴をして体を清潔にしておきましょう
歯磨き・うがいをして、口の中を清潔に保ちましょう

●活動

特に制限はありません
白血球が減少している期間は、風邪をひきやすかったり熱が出やすい
ため、外出時マスクを着用しましょう
外出や買い物は比較的人ごみの少ない朝の早い時間をお勧めします

●お薬

医師の指示どおりに服用しましょう



●その他

外来受診は、必ず受けるようにしましょう
外見の変化（脱毛、爪、皮膚のくすみなど）に関して気になることがあれば、患者・家族総合支援センター「暖だん」で情報を用意していますので、お気軽にお立ち寄りください

外来受診や再入院時には、服薬手帳をお持ちください



- 体を起こせないほどの強いだるさが何日も続くとき
- 口渇、多飲、多尿がみられるとき
- 37.5℃以上の発熱が続くとき
- 発熱、関節やのどの痛みなどを伴う発疹がみられるとき
- 整腸剤や下剤を服用しても水のような下痢が続くとき
- 吐き気、嘔吐があり、食事や水分がほとんどとれないとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8:30~17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更

【平日】 13:00~17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112

カピバセルチブ（トルカブ）+フルベストラント（フェソロデックス）療法
を受けられる方へ